

令和7年度第2回天草市総合教育会議（議事概要）

1 期 日 令和8年3月9日（月）午後2時～午後3時30分

2 場 所 天草市役所2階 庁議室

3 出席した委員等

市 長	馬場 昭治	教育長	平田 浩一
委 員	木下 えり子	委 員	行合 八恵子
委 員	吉森 啓司	委 員	池崎 教授
委 員	小林 景子		

4 出席した事務局職員

教 育 部 長	平野 貢司	教育総務課長	山下 鎮也
学校教育課長	福田 稔	生涯学習課長	西崎 正和
学校給食課長	宮崎 奈美	学校教育課審議員	松本 祥司
学校教育課審議員	鶴田 美紀	教育総務課課長補佐	伊野上 乾悟
教育総務課課長補佐	正村 謙一	教育総務課総務企画係長	松下 美紀
学校教育課課長補佐	岩下 健太郎	学校教育課課長補佐	宮本 美香
学校教育課教務係長	中原 静也	生涯学習課課長補佐	坂本 真理子
生涯学習課中央図書館庶務係長	吉田 悦子	学校給食課管理課長補佐	袋田 一貴
学校教育課参事	濱田 祐輔	教育総務課参事	松本 智明

5 議題

（1）協議・調整事項

- ①天草市立小中学校適正規模適正配置審議会について
- ②天草市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- ③その他

6 会議の概要

（1）開会

（2）市長挨拶

- ・馬場市長から挨拶があった。

（3）協議・調整事項

①小・中学校のあり方について

説明概要（資料1により、教育総務課から説明）

- ・先日の議会定例会で審議会条例を可決いただいた。審議会は委員25人以内をもって組織するとしており識見を有する者のほか、各旧市町から2名ずつ、計20名選出いただくことで進めている。
- ・スケジュールについて、来年度に入ってからすぐに審議会を開催したいと考えていたが、委員の選出を各支所をお願いしたところ、来年度がまちづくり協議会の役員改選の時期で、5月にならないと会長等が決まらないといった事情があり、第1回目の審議会を6月上旬に変更させていただく。
- ・なお、2回目に予定していた各地区への説明についても1回目の審議会に合わせたい。
- ・また、諮問内容に関しては、本日の会議の意見も踏まえ、5月の教育委員会の定例会にて協議いただきたいと考えている。

～質疑・意見等～

【馬場市長】

各支所からの人選は、いつになりそうか。

【教育総務課】

各支所に対しては、まちづくりの団体やPTAなど、どの組織から選出いただくかを3月までに教えてほしいとお願いしている。まちづくり協議会の場合、5月の総会にて会長等が決定するが、内々に決まった段階で支所から情報を得ながら準備を進めていく。

【馬場市長】

2月の議会定例会にて、中学校の統合に関する一般質問があり、私から、まず小学校はそのまま、中学校は地域に残すのがいいか、近隣の学校と統合を進めるのか、最善の方法を考えていただきたいと発言した。

本件は、本市の将来に関わる非常に重要な案件であるため、来年度は、教育総務課内に新たな係を設けて、人員を配置し進めていく。教育委員の皆様にもご協力をお願いする。

なお、小学校は現状のままということに、議会からは特段意見もなかったが、中学校は早く進めてほしいという意見はあった。審議会の答申まで2年ほどかかる見込みだが、地域の合意が得られ、方向性が固まった場合には、審議会と並行して進めていくことを教育長からご発言いただいた。

【平田教育長】

学校の統廃合という課題は、地域の活性化にも関わる重要な問題であり、条例設置の審議会ということでそれなりの重みがある。現在、学校に関する教育課題も多様化しており、学校だけでは解決できない問題もあるため、地域の協力は重要であると考えます。

なお、各学校においては、地域の皆様の協力を得ていろいろな成果を上げており、仮に統廃合があったとしても地域の皆様や保護者とは、協力的な関係でなくてはならない。そのためには、学校のあり方とは何か、それぞれの地域の問題でもあるので、地域の方々ともしっかりと話し合っていただくことが重要である。

審議会を立ち上げた後は、各地区への説明会も進めていくが、統廃合以外のケースなども説明し、意見をもらいながら進めていければと考える。

【池崎委員】

昨日、牛深東中学校の卒業式に出席した。卒業生は12名だったが、地域の方々もたくさん参加されており、本当に良い子どもたちが育っていると感じた。

できるなら中学校もそれぞれの地域に残し、子どもたちを育てていくことが理想であるが、報道でいわれる教職員不足、働き方改革という問題もあって、統廃合も考えていく必要があると思う。

【馬場市長】

人数が少ないと競争心が育たない、ある程度の人数で競争させることが必要といわれるが、校長の話では、地元の高校のほかに、熊本市内の進学校を受験する者もいると聞いている。何が正しいのか、それぞれの価値観にもよるかもしれないが、本当に難しい問題である。

【平田教育長】

そういったことも含め、それぞれの地域でしっかりと話し合っていただくことが必要である。

【行合委員】

現実として、保護者の就労や遊ぶ友達が少ないからという理由で転居されるような話も聞くが、子

どもたちの通学時間の負担、精神的な負担、小学生の不登校が増える中で小学校に関しては、十分に考えられた答弁であったと思う。

中学校については、以前の中学校の統合で保護者の反対が強かったこともあり、できるだけ穏やかな形で進めていただきたい。可能であれば、中学生にアンケートを実施できないか。将来を見据えた中学生の意見を聞いてみてはどうかと思う。

【教育総務課】

アンケートを取ることで、統合するか学校を残すのかの二者択一になる可能性がある。地域に対して、統合以外の選択肢があるという情報をしっかりと示してから行う必要がある。

学校のあり方検討会でも子どもの意見を聞いてはどうかという意見はあったが、どこかの時点で行うにしても、そのタイミングは考えていく必要がある。審議会の委員に、有識者として大学教授をお願いする予定であり、その先生とも相談しながら考えさせていただきたい。

【平田教育長】

私から教育委員の皆様にご意見を伺いたい。令和8年度において複式解消のための市費負担教職員を4校6名配置しなくてはならないが、現時点で1名が決まっていない。報道等で、教員不足がいわれる中、本採が育休・産休に入った場合の後補充もできない状況が現実としてある。

今後、複式学級が増えることが見込まれる中で、これまで通り市費負担教職員を充て、複式学級を解消していくことは難しい。答申を待っても2年後であり、直面している課題に対して並行して検討を進めていく必要がある。教育委員の皆様の考えを聞かせていただきたい。

【木下委員】

複式学級の解消は望ましいが、こういう教員不足を考えると仕方がない。複式学級になると教員の負担は大きくなり、教員の技量が試されることもいわれるが、今はタブレットによる学習もあって、自分たちで主体的に意欲をもって学習することを目指しており、よいのではないかなと思う。

【吉森委員】

個人的に複式学級の解消は望まない。

【小林委員】

私は単式学級がいいと思う。教員の負担が増えると、教員のなり手不足にもつながりかねない。先生の仕事が大変だということは分かっているのだから、教員の負担がなるべく軽くなればと思う。

【行合委員】

教員の負担を考えると複式学級はない方がいいが、状況を考えれば仕方がない。私の子どもは3人とも複式学級で育った。良い先生に恵まれたこともあるが、学力の面で子どもたちに悪い影響はなかった。子どもたちの仲は良く、自主的になんでもしなければならぬので、リーダー的な要素も育っていく。決して複式学級がマイナスではないと私は断言できる。

【平田教育長】

教員の負担を言われるが、そのまま放置しようという考えではない。それは教育委員会の課題でもあり、これからどう対策を進めていくのかを考える必要がある。DXの推進により保護者への連絡もタブレットを使って行うなど、業務負担の軽減、簡素化をより一層進めていきたいと考えている。

【池崎委員】

複式学級に対するマイナスイメージが強い気がする。この前、新聞に岐阜県のある小学校が載っていたが、小規模校の強みを生かすような教育を目指しているという記事であった。

そういう先進的な事例も見ながら、複式学級でもよい教育ができるということを示していけば、周囲の考え方も変わってくるのではないだろうか。

【平田教育長】

ご意見のとおり複式学級の良さを周知したり、教員の研修等を進めていく期間が必要だが、教育委員の皆様のご理解がなければ私としても身動きがとれない。

審議会に諮って答申を待てば2年後、3年後となり、さらに複式学級の数が増えていく。ここである程度の方向性を確認したい。承認いただいてよろしいか。

【委員一同】

はい。（承認）

【平田教育長】

もう一つ、小中学校の適正規模等を話し合う上で、当面、小学校はこのまま残す考えだが、本渡地区は大規模・通常規模の学校が3校あるが、大規模校になじめない、学校に行くことができない子どもたちの居場所として、本町小学校を小規模特認校として位置付けたいと考えている。

このことについても、委員の皆様の考えを伺いたい。

【池崎委員】

校区外だが通学方法はどうするか。仮に保護者送迎となった場合の責任は。

【平田教育長】

同じ本渡地区であり、保護者での送迎を考えている。補償等については、保護者の車両保険の範囲内での対応となるが、詳細については、今後、整理を進めたい。

【行合委員】

賛成である。ほかの地区にも導入できないか。

【平田教育長】

ほかの学校に導入した場合、近隣の小規模校で児童の取り合いになってしまう可能性が高く、他校については、これまで同様としたい。

現在、本町小学校には校区外から9人が通学していることもあり、本渡の3校区を対象に本町小学校を小規模特認校とする方向で進めたい。

【馬場市長】

全員異議なしでよろしいか。

【委員一同】

はい。

②天草市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

説明概要（資料2により、学校教育課から説明）

- ・ 昨年まで働き方改革推進プランを策定して進めてきたが、この度、給特法等の改正により教職調整額の引上げが決まった。それに伴い、市町村教育委員会では、業務量管理・健康確保実施計画を策定し、これを総合教育会議で諮り、毎年その結果を報告することが国の通知に示されている。
- ・ 教員のなり手不足がいわれる中、学校で働く教職員が心身共に健康であるためにも、働き方改革を推進する必要があり、教育委員会のみならず、行政・自治体とも協力しながら取組みを進めていく。

～質疑・意見等～

【小林委員】

学校には、教員免許がなくても働ける職種はあるのか。教員免許がなくても学校で働くことができる職種があれば、希望される方が多くいるのではないか。それが先生たちの助けになるのであればなおさらよいことである。

【学校教育課】

学習指導補助教員は免許が必要だが、教育活動支援員は免許がなくても働ける。教員免許がなくても働ける職種はほかにもいくつかある。必要な場合はお尋ねいただきたい。

【行合委員】

夜の喫茶店で学校の先生同士が話をされていることを見かける。仕事が終わった後も真剣に話をされている姿を見ると感動を覚える。このように一生懸命仕事をされている方がストレスで仕事を辞められないようにするには、どのような手立てがあるのか。

【学校教育課】

学校では、児童生徒のトラブルや保護者からの要求などいろいろあるが、ひとりで対応せずに複数で対応する。解決できない場合もあるかもしれないが職員も成長できたことをほめて伸ばす考えが必要だと思う。

不登校でも同じようなことがあるが、自己肯定感や有用感といった部分は大人でも同じである。自分がこの学校で働いてよかった、担任をしてよかったと思える環境づくりが大切ではないかと思う。

【木下委員】

地域の方から、夜遅くまで学校の電気がついているという話を聞く。我々だけでなく地域の方々も先生たちの健康を心配されている。

地域の方々も心配しておられることを先生方にも考えていただきたい。まずは、自身の健康管理を一番に考えてほしい。

【行合委員】

残業を制限すると結局、持ち帰りの業務が増えるのではないか。

【学校教育課】

授業以外の仕事は子どもが下校してからとなり、中学校は部活動もあるが、できるだけ勤務内で終わるように校務ＤＸの取組により、削減できる仕事は削減することで進めている。

【吉森委員】

中学校の部活動は社会体育に移行する途中であるが、部活動を社会体育に移行していくことも大変よいことではないかと思う。

③その他（フリースクールの現状について）

説明概要（配布資料により、学校教育課から説明）

- ・本市のフリースクールの現状の利用者数について、本年度、このいづれ楠浦校を利用した児童生徒が10名、熊本学習支援センター下田南校が3名となっている。（令和8年2月現在）
- ・課題として、熊本学習支援センター下田南校の経営が不安定となっており、仮に閉校した場合、そこに通う子どもの居場所を考える必要がある。

- ・そのような中、本市では来年度、牛深に学習支援センターを設置し、心の教室相談員の名称をほつとサポーターとして、小学校の子どもたちの相談にも対応していくことで進めている。
- ・なお、牛深地区においては、「よかところ」という民間の施設が4月1日から開校予定であり、話によれば、eスポーツや体験学習を軸に子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し、社会的自立を支援するとのことである。
- ・また、本市では令和5年に「不登校の児童生徒の出席扱い及び評価等に関するガイドライン」を策定したが、体験活動を通じた社会的な自立や学びに向かう力を正當に評価する方向が求められていることから、今後、本ガイドラインの見直しを検討したいと考えている。

～質疑・意見等～

【馬場市長】

新しくできる「よかところ」のスタッフは何人くらいか。

【学校教育課】

学習支援のスタッフ、運転手、給食など、当初は5名で運営されると伺っている。

(4) 閉会

以上